

平成21年度文学研究科共同研究・研究成果報告書

申請者氏名	福永伸哉
-------	------

下記のとおり共同研究成果を報告いたします。

記

研究テーマ	新しい古墳時代像提示のための基礎的研究
-------	---------------------

[研究組織]

氏名	年齢	所属機関・職名	研究分野
福永伸哉	**	大阪大学文学研究科・教授	日本考古学
高橋照彦	**	大阪大学文学研究科・准教授	日本考古学
市大樹	**	大阪大学文学研究科・准教授	日本古代史
寺前直人	**	大阪大学文学研究科・助教	日本考古学
禰宜田佳男	**	文化庁記念物課・主任文化財調査官	文化財学
佐々木憲一	**	明治大学文学部・准教授	アメリカ考古学
禹 在柄	**	韓国忠南大学校・教授	韓国考古学
朴 天秀	**	韓国慶北大学校・副教授	韓国考古学
ロラン・ネスプルス	**	仏国立東洋言語文明学院・准教授	欧州考古学

[研究概要：当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果などをご記入下さい]

<p>本研究は、国際比較研究の手法を加えて新しい古墳時代歴史像を提示する総括的な大型プロジェクトを企画立案するために、必要な研究手法、対象地域、国際研究組織などを検討するものである。研究費が申請額の半額に減額されたため、海外調査旅費や海外研究者招聘旅費などが計上できなかったが、科研費などによる出張や招聘の機会をとらえて活動を補った。以下、申請書に示した3つの柱に沿って、成果を記す。</p> <p>(1) 畿内地域の古墳築造動向にもとづく古墳時代政治構造の分析</p> <p>宝塚市長尾山古墳の発掘調査を実施し、猪名川流域では最古の前方後円墳であることを立証した。当地域と大和政権の結びつきの出発点を明確にできたことにより、古墳時代政治史の復元に重要な成果を提供した。第2回、第4回の共同研究会で成果を報告した。</p> <p>(2) 国家形成過程の国際比較に関する方法論的研究</p> <p>墳墓記念物が発達するフランス、ブリテン島中部、韓国の事例について、海外の共同研究者の参画を得て討論した（第1回、第6回共同研究会）。国家形成過程の初期段階において墳墓記念物や葬送儀礼が政治統合に重要な役割を果たす共通の局面があることが明確になり、その背景を比較検討するための認識を共有できた。成果の一端は、福永が Harvard East Asian Archaeology Seminar においても発表した。</p> <p>(3) 調査研究成果の社会活用に関する実践的研究</p> <p>宝塚市長尾山古墳において、発掘調査情報のリアルタイムでのネット発信、遺跡公開説明会の開催など通じて研究成果の社会的活用の実践を行い、より効果的な方法を模索した。</p>

[研究会等の開催実績、刊行・公表された研究成果（論文・書籍等）をご記入下さい]

<研究会等>

第1回 2009.8.26 ロラン・ネスプルス（仏国立東洋言語文明学院）「ヨーロッパの国家形成期の遺跡調査と理論研究」、福永伸哉（大阪大学）「ブリテン島アングロサクソン期の王墓と集落」ほか

第2回 2009.9.23 長尾山古墳発掘調査現地説明会を兼ねる

第3回 2009.12.19 高橋照彦（大阪大学）「政権交替論の歴史考古学的検討」、清家章（高知大学）「首長系譜の変動と父系化」ほか

第4回 2010.2.6 朴天秀（慶北大学校）「新羅と倭—古代韓日交渉史研究の新たな展望—」、伊藤聖浩（羽曳野市教育委員会）「古市古墳群内の居住域の検討」ほか

<主要論文・口頭発表等>

福永伸哉編 2010.3『長尾山古墳発掘調査報告書』大阪大学文学研究科、pp.1-37

福永伸哉 2009.3「青銅器から見た古墳成立期の太平洋ルート」『弥生・古墳時代における太平洋ルートの文物交流と地域間関係の研究』高知大学人文学系、pp.55-70

高橋照彦 2010.7「天皇陵」における前方後円墳の終焉『歴史の中の天皇陵』思文閣出版(近日刊行)

寺前直人 2010.5『武器と弥生社会』大阪大学出版会、pp.1-345

福永伸哉 2009.11.3 "Significance of 'Triangular-Rimmed Mirrors' in State Formation in Japan", Harvard East Asian Archaeology Seminar (Harvard University) 口頭発表

高橋照彦 2010.2.14「大王陵最後の前方後円墳をめぐって」(大阪府立近つ飛鳥博物館) 口頭発表